

スポニチアネックス 平成28年3月28日

## ジュニア防災検定で表彰式、助けられる人から助ける人へ

地震や台風、大規模水害など自然災害対策がされていく中、小・中学生の防災に対する総合力を高める「ジュニア防災検定」の第3回表彰式が27日、都内で行われた。

一般財団法人防災検定協会が主催する同検定は、筆記試験だけでなく、事前から事後まで3つのステップで構成。この3つのステップを通して、子どもたちが日常から防災と減災に深い関心を持ち意識を高め、自分で考え判断し、行動できる「防災力」を身に着けることを目的に今年5月で4年目を迎える。

今回の表彰式は今月22日までに同検定を受験し、審査を受けたものを対象に、事前課題特別賞「初級」(8人)、「中級」(22人)、「上級」(7人)、事後課題優秀賞「初級」(12人)、「中級」(33人)、「上級」(25人)のほか、成績優秀賞「初級」(6人)、「中級」(7人)、「上級」(23人)の各部門で計143人が表彰された。

表彰式冒頭に同協会の岩瀬正司副理事長は「学校現場では防災教育の取り組みが行われていますが、まだ十分なものでなく、さらなる防災教育の推進が必要です。子どもたちの防災意識の定着を図り、1人1人の子どもたちが自分の命は自分で守る力を身につけ、将来助けられる人から助ける人になることを目指しています。4月からは高校生以上を対象とした検定もスタートしますし、それと同時に協会の名称も変更する予定です」と防災への高まりとともに、協会がさらなるステップアップを目指すことを話した。

表彰式後、成績優秀賞受賞者の中から荒川区原中2年の宮田羽菜子さんら4組が課題発表を行った。「私が住む荒川区は、大地震などの災害時にとても危険な地域だと知りました。そのため、今年度から区内の全小学校には防災部や防災ボランティアが設置され、その活動を調べました。昨年8月には荒川区の被災地訪問団のメンバーとして、宮城、岩手と被災地に足を運びました。ジュニア検定を通じて、事前学習では家族と防災について話し合うきっかけができ、今までの活動を通じて区内にある防災公園のことについて勉強することができました。これから地域の防災活動に自ら参加して、友達や地域の方々を助ける人として頑張っていきたい」と宮田さんが発表した。